

ISSN 0910-2396

野鳥たより

—北海道—

第 87 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成 4 年 3 月 21 日

オオホシハジロ

茨戸川

3. 12. 15



撮影者

新城

久



もくじ

私の探鳥地 (20).....	赤石誠二.....	2
北海道に舞いおりた迷鳥 (9).....	山田良造.....	3
鳥見人からの便り (3).....	和田淳.....	4
生振・茨戸川流域の野鳥.....	泉勝統.....	6
探鳥会報告.....		14
探鳥会案内.....		16
鳥民だより.....		5

私の探鳥地 (20)

余市川 赤石誠二

私は余市川をフィールドとしています。

余市川河口から水明閣まで、自転車で小鳥達を見にいけます。春はカワセミ、ヤマセミをとくにヤマセミは、写真を撮影にいけます。

ヤマセミの撮影は今年で9年目になります。

水明閣の公園では、ニュウナイスズメ・アカゲラ・コゲラ・イワツバメ・カワセミ・ノビタキ・ウミネコ・ミサゴ・トビ・コムドリなどの夏鳥も見られます。秋から冬にかけては、ミヤマホホジロ・ウソ・オジロワシ・ハギマシコ・キレンジャク・ヒレンジャク・ハヤブサが見られます。余市川は私のふるさとです。いつも一人で余市川を歩きます。

撮影にはブラインドをつかって水辺の鳥をおもに撮影しています。余市川での迷鳥は、シロハヤブサ・クマゲラ・ゴイサギ・ハチクマなどで、水明閣付近で見られた鳥です。ただ、ゴイサギは余市川で繁殖していると思われず。

平成2年9月15日には友だちのカヌーにのり余市川を上りました。水明閣の下の中島でゴイサギの群れを見つけましたが、幼鳥10羽成鳥3羽を中島で確認しました。はじめてカヌーにのったのでカメラをもっていきませんでしたので撮影できず残念でした。

サケがぼってくるころミサゴがダイビングして捕えるのを水明閣の上下流で見られ、本当に素晴らしいの一語につきます。12月中旬頃まで見られます。

私が見た余市川での鳥は、ヤマセミ・カワセミ・オジロワシ・オオタカ・クマタカ・ハヤブサ・チゴハヤブサ・ハチクマ・ハイタカ・ノスリ・トビ・カイツブリ・ウミウ・ゴイサギ・アオサギ・ダイサギ・オシドリ・マガモ・カルガモ・コガモ・ホオジロガモ・ウミアイサ・バン・

クイナ・コチドリ・アカアシシギ・キアシシギ・ユリカモメ・セグロカモメ・オオセグロ・ウミネコ・シロカモメ・ミツユビカモメ・アジサシ・キジバト・カッコウ・アマツバメ・カワセミ・ヤマセミ・ヤマゲラ・クマゲラ・アカゲラ・コゲラ・イワツバメ・ヒバリ・キセキレイ・ハクセキレイ・セグロセキレイ・ヒヨドリ・モズ・アカモズ・キレンジャク・ヒレンジャク・カワガラス・ミソサザイ・ノビタキ・ルリビタキ・クロツグミ・アカハラ・ツグミ・ウグイス・コヨシキリ・エゾビタキ・オオルリ・キビタキ・ハシブトガラ・ヒガラ・ヤマガラ・シジュウカラ・エナガ・ゴジュウカラ・ホオジロ・アオジ・ミヤマホオジロ・カシラダカ・オオジュリン・アトリ・ハギマシコ・ベニヒワ・マヒワ・カワラヒワ・ベニマシコ・ウソ・シメ・ニュウナイスズメ・スズメ・ムクドリ・コムドリ・カケス・ハシボソガラス・ハシブトガラスなどで特に水明閣付近では相当数の野鳥を見ることができ楽しい探鳥ができます。

〒063 西区発寒14条2丁目4-12



カラシラサギ PL 和田 淳

北海道に舞い降りた迷鳥たち (9)

山田良造

昨年6月27日、私は野付半島を訪れた。原生花園はセンダイハギの黄色い花が盛りで、ノゴマ、シマアオジ、アカアシギなどが子育て中であった。特にアカアシギはコロニーに立入る者を警戒して、8羽が頭上を飛び交い、行手をふさいだ。

この地が気に入って、繁殖しているアカアシギを見

ていると、このまま手つかずの自然が、残ってほしいと思った。

今回は札幌市飛田信彦氏、羽幌町寺沢孝毅氏、それに私の記録です。

(鳥名番号は前号から続く)

31. セボシカンムリガラ (シジュウカラ科)

1991年1月23日、広島町白樺北海道新聞本社写真部飛田信彦氏は、自宅庭バードテーブルに飛来したシジュウカラに似て冠のある黄色の顔が印象的な珍しい鳥を撮影した。昨年1月25日付北海道新聞には、「亜熱帯の鳥セボシカンムリガラ広島町に飛来」の報道記事が掲載された。

昨年1月27日、私はこの鳥を観察にいくと、広島町白樺3丁目北角方庭、バードテーブルにこの鳥はいた。シジュウカラ、ヤマガラに交じって、ヒマワリの種子をついばみ、いったんライラックの枝に飛び移っては、両足で種子を押えついでいた。ときどき付近丘陵地雑木林で過ごすこともあった。

北角さんの話では、1昨年11月から北角方庭バードテーブルに飛来し、採餌しているとのことであった。この鳥は昨年2月中旬までは確認されたが、その後姿が見えず、ハイタカが何回か飛来したことから、捕まったのではないかと心配した。



セボシカンムリガラ 1991. 2. 1
広島町白樺町3丁目 山田良造撮影

この鳥の和名が、セボシカンムリガラか、キホウカンムリガラであるか話題になったが、日本野鳥の会記録委員会に照会し、ブラックスポッテドイーエローテイツ

ト、和名セボシカンムリガラであるとの回答があった。

セボシカンムリガラは全長約14cm、頭が黄色で黒色の冠がある、体はシジュウカラに似ているが、背に黒色斑があり、胸に黒色太いネクタイがある。

分布はヒマラヤから東南アジアの一角である。本種はカラ類であり、留鳥の性格が強く、生息地から日本まで迷行したとは考えにくい。

1991年8月18日、日光市場元で日本野鳥の会記録委員会事務担当本村氏が、同種のカゴ抜けと思われる個体(尾羽が擦り切れていた)を確認しており、飼鳥として輸入されている可能性は高い。

32. ヘラサギ (トキ科)

1991年4月30日夕方、羽幌町天売寺沢孝毅氏は、天売中学校グラウンド草地にサギ大で白色の鳥2羽いるのを観察した。1羽はアマサギで、もう1羽はヘラサギであった。

ヘラサギは雨上りの水たまりで、しゃもじのようなくちばしで餌をあさっていた。これがそのときの写真です。残念なことにこの鳥は数日後、餌を十分とれなかったのか、へい死体で発見された。

ヘラサギは全長約86cm、しゃもじのようなくちばしをもった大形の水辺鳥。体は白色で、繁殖期には冠羽を生じ(若鳥は冠羽を欠く)、くびには橙黄色の帯がある。くちばしは、黒く先端は黄色、くちばし基部から目の下に裸出部がある。目は赤く足は黒い。

北アフリカ、ヨーロッパ南部、インド、中央アジア、ウスリー、アムール地方で繁殖する。

日本には冬鳥として渡来するが少ない。鹿児島県出水市ツル渡来地に、1958年～60年には群れで渡来した記録があるが、現在は1～2羽くるだけとなった。

北海道には1866年と1879年函館、1982年5月浜頓別、1983年9月17日苫小牧ウトナイ(このときは私も観察した)、1985年9月19日女満別網走湖畔)、1986年4月6日苫小牧ウトナイ、1991年天売島前記記録。



ヘラサギ 1991. 4. 30 羽幌町天売 寺沢孝毅撮影

33. シロハヤブサ (ハヤブサ科)

1982年～1987年、私が岩見沢に住んでいた頃、郊外の下志文周辺水田地帯が、真白な冬景色になると、シロハヤブサが飛来した。

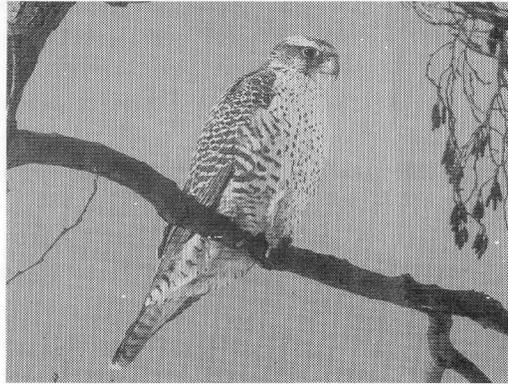
下志文には籾を脱穀するライスセンターがあり、この籾殻に未熟米が残っていることから、ドバト、スズメが群れていた。

シロハヤブサは付近の電柱や樹木に長時間止り獲物を狙っていた。この気配を察したドバトは飛び上った途端襲われたが、はばたきはハヤブサより遅いためか、失敗も多かった。ときには水田に残されたわらの中で動く、ねずみを狙い襲っていた。

残念なことに1988年以降、岩見沢周辺でシロハヤブサの姿は確認できない。最近になっての例は92.1.3本会員赤石誠二氏が余市町黒川で撮影に成功した。

シロハヤブサは全長約56～61cm。淡色型、暗色型、中間型があり、岩見沢に飛来したのは中間型で、上面が灰色、下面は白地に黒色縦斑がある、目の周囲と足は黄色。

ユーラシア大陸、北アメリカ大陸の極北部で繁殖し、冬はやや南下するものもいる。日本には数少ない冬鳥と



シロハヤブサ 1987. 1. 20
岩見沢市金子町 山田良造撮影

して渡来する。記録のある地域は北海道、対馬。

北海道には函館（年月不詳）、1884年小樽、1892年根室、1894年勇払、1919年恵庭、1929年網走、1979年～1991年幌延、1980年～1987年岩見沢、1986年～1991年根室。

<参考文献>

日本産鳥類図鑑（東海大学出版会）、鳥630図鑑（日本鳥類保護連盟）、フィールドガイド日本の野鳥（日本野鳥の会）、日本鳥類大図鑑（清棲幸保）、日本野鳥の会記録委員会回答資料、北海道新聞報道記事等参照。

〒003 札幌市白石区栄通16丁目4-13

鳥見人からの便り (3)

偽 闘

和田 淳

数年前のアルバムを整理中に気付いたことを拙文にまとめてみました。若し使えるものならと思って送ってみます。よろしく……。

ホリカップの沼にパンの様子を撮影にいったときのことである。

沼に着いた途端にパンの親子を発見、興奮気味に岸边に近づこううちにその他にも親子連れのパンが数組、悠々と採餌していることに気づき、三脚を握る手に緊張感が走る。

迫力の点からも、一番距離の近いパンの親子にピントを合わせにかかった。「親子の愛情が画面からにじみ出てくるもの」と願っていたが、被写体になった親子のパンは、私の存在に気付いたのか、子どものパンが親か



ら離れ始めたのである。あわてた私は、ファインダーから目を離し他の親子を探すうちに、何かパンの親同士の間には険悪な空気が醸し出されているのを感じた。そのうちに親達は、妙な奇声を上げながら葦の隅に集まり始めた。と、思ふ間もなく三羽が向き合ったと思うと、あるものは羽を大きく羽ばたいたり、あるものは水面を激しく叩いて水しぶきを上げたり、奇声を上げながら首を前後に振り回すなど激しく争い始めたのである。



愛情細やかな親子の情愛を撮ろうと用意してきたカメラであるが、急遽スクープを追うカメラマンとなり、パンの葛藤を撮る羽目になってしまった。なにしろ焦点深度の浅い望遠レンズを使っているので動きの早い三羽をバッチリと押さえることは難しく、何度もシャッターチャンスを見失った。でも、やっと数回おとした頃、争いも終末に近くなったのか茂みの中へと移り、時々激しい羽音や水音を立てていたが、いつしかそれも聞こえなくなりました。

ふと、顔をあげるといつの間にか夏の暑い太陽がざらついてきた。そして、沼の水面はシーンと静まり返っているだけであった。

三脚の脚を閉じながら「狙っていた物と違うものが撮れたが、迫力のあるものになれば……」と、思いがけない収穫にはくそ笑んでいた。

数日後、プリントしたものの見ると、期待していたほどの作品には出来上がってはいなかった。プリントを眺めてぼんやりと、あの荒々しかったパンの親達の動きを反芻しているうちに、ふと「偽傷」という親鳥の行動が思い浮かんだ。

確かに、あの時の親鳥達の行動には緊迫感が漂っていたが、特に強力な嘴で一撃を加えるわけでもなく、羽毛が飛び散って血がしたたるわけでもなく、思い返すと幼児達が身体を激しく動かして水かけごっこをしているのに似ていたことに気付いた。そして、争いが終わって、親鳥達が葦辺に姿をかくした後の、物音一つしない妙な静まり方にも奇異を感じる。



とすると、親鳥達のこの一連の行動は、幼鳥達に危害を加えそうな者達の目をくらまし、幼い子ども達が、安全な場所に避難する時間をかせぐためのものではないかと考えることができる。そして、この行動は、数羽の親たちが、協力して偽りの闘争を繰り広げたことになるので「偽闘」と言えるのではないだろうか。案外それと似たことが他の種でも行われているのに私達が気付いていないのかもしれない。

〒045 岩内町高台74



◆総会のご案内

平成4年度の総会を次のとおり開催いたしますのでご参加ください。

日時：平成4年4月18日(土)
午後2時

場所：札幌市民会館(中央区北1条西1丁目)

議題：平成3年度事業報告
平成4年度事業計画 ほか

◆野鳥写真展のご案内

今年も野鳥写真展を次のとおり開催しますのでどうぞ写真の応募をお願い致します。

・写真の送付先

〒062 札幌市豊平区西岡1条7丁目1~14
井上公雄(T 011-854-6315)

締切日 4月15日(水曜日)

・写真展の開催日

北海道電力エレナードギャラリー

5月6日(水)から5月12日(火)まで

たくぎん本店地下キャッシュサービスコーナー

5月13日(水)から5月27日(水)まで

石狩川水系 生振・茨戸川流域の野鳥

泉 勝 統

1 観察地域

札幌市の北に接する「石狩町生振」を中心とし、それを取りまく茨戸川・真駒別川流域（花畔・マクンベツ・札幌市東茨戸やあいの里の1部を含む）の観察記録に、茨戸川に注ぐ石狩川2次支流の創成川・伏籠川を加えた。

2 観察期間 1988年4月～1992年3月（4年間）

3 地域の環境

石狩町生振は、東を石狩川に遮られ、南から北は旧石狩川であった茨戸川（石狩川1次支流19.7km）と真駒別川（2次支流2km）が囲繞している島状の地形である。

東西方向には基線防風保安林（以後は基線林）が、南北方向は筋違線保安防風林が並んでいる。その他、北側などにも民有の疎林が点在している。

河筋に沿って、僅かばかり河畔林が在り、真駒別川流域には「低層湿原」が残存し、半自然ないし人工林の林床を湿生植物が覆っている。茨戸川岸も僅かではあるが河畔林があり、林床に抽水・湿地植物が生え、個体数は少いが野鳥の生息の場となっている。水鳥も年により差はあるが越冬する。

4 鳥相の概要

この限られた地域で記録した野鳥は34科161種であるが、繁殖を確認したものは僅か55種であり、夏鳥の4～5月観察のものは通過のものが多い。今後もっと精細に観察すれば繁殖例の確認が増すかも知れない。

1) 水辺の鳥……茨戸川の堤道からの観察がはじまりであった。従って水鳥の観察からはじまり、次に河畔林・堤防内外の草地の鳥の観察へと移っていった。水鳥は4科29種で、カモ類が多く、ついでカイツブリ類となる。ガン類は稀である。

2) 草地の鳥……石狩川左岸堤防や、茨戸川その他の河川敷地の草地に、オオジュリンをはじめヨシキリ・ノビタキ・シマアオジ等が繁殖し、堤外地ではヒバリ・ホオアカなどが多い。

3) 森林の鳥……堤防の水辺林は極めて狭小なので、個体数は少いが、初夏・秋に通過する野鳥の数も決してすくなくない。防風林でも、3～5月にキクイタダキ・キバシリ・ジョウビタキ・ルリビタキ・マミジロ。9～10月シロハラ・カシラダカ・ベニヒワなどが採餌してゆく。

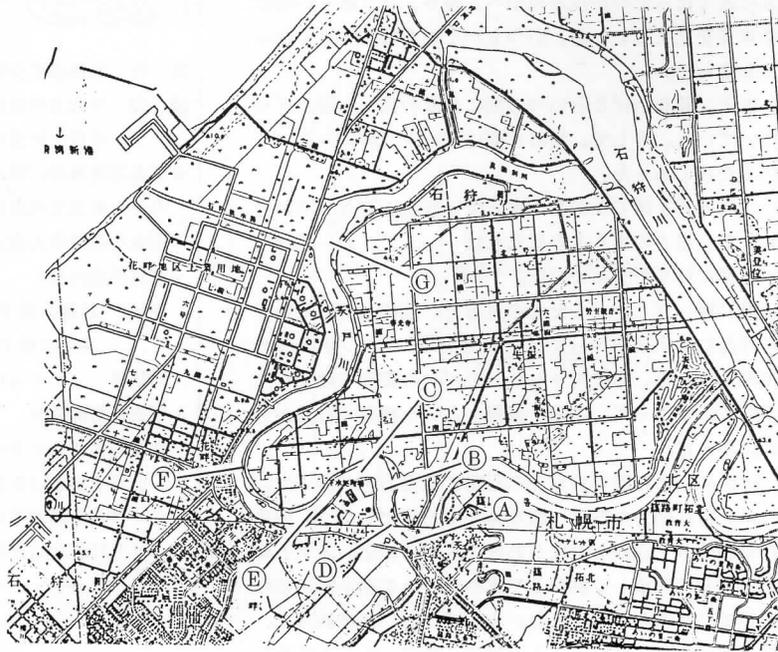
生振全域は、畑地・水田などの中に休耕田や草地・荒蕪地がモザイク形に混在し、農家の屋敷森・民有林も野鳥にとって格好の生棲地となっている。

5 珍しい鳥の飛来

1) オオホシハジロの越冬

・1988年11月9日午後3時5分。茨戸湖面に着水したヒドリガモ42羽の20m後方に、はじめてオオホシハジロを見た。次々と北から来る水鳥が南下してゆくのに、オオホシハジロは凍結しない茨戸川に残っている。11月25日から12月14日まで姿が見えない。15日は生憎の吹雪だったが、堤道を歩く。茨戸川観察点B（地図上のB点）で観察中、対岸近くを吹雪をさけて下流方向に泳ぐオオホシハジロ♂♀を見つけた。この冬は1月になると酷寒続

〔地図 石狩町生振〕



きで、茨戸川の水面も、ほとんど凍結した。6日には旧茨戸園前（A点）で越冬するオオホシハジロ♂♀とホシハジロ♂の3羽組を見る。2月中旬に開水面が広がると、採餌範囲が広がった。終認は3月5日である。日本海側内陸部で初の越冬確認との事であった。

・1989年11月11日夕方。ホシハジロ11羽と一緒にオオホシハジロ♀が茨戸水面（C点）に着水したのが初認。この年も4日程で姿が見えなくなった。下流を探しても見当らない。11月22日E点で観察中、茨戸右岸にオカヨシガモと共に逆立採餌しているのを再び見る。前年通り1月4日から河面凍結して、A点前で越冬。終認は3月22日であった。



オオホシハジロ 89.2.5. 志田 博明 撮影

・90年10月29日16時10分頃。北方向よりホシハジロ（♂7♀1）と共にオオホシハジロ♀が着水（C点）。3日目には、また姿が見えなくなった。追えど探せど姿は見えない。諦めかけた頃、本会員永島良郎ご夫妻が石狩放水路で、11月23日にオオホシハジロ♀を見たとの電話があった。翌日出掛けて見る。ホシハジロとの「9羽組」が、そっくり放水路に入り、水藻類を採餌しているのを見て驚いた。その後、水面凍結してくると茨戸川へ移動する。下流凍結すると、E点……茨戸下水処理場排水溝前の開水面に集まる。厳寒期は茨戸園前A点と……どうやら、その足どりを精細に把握できた。終認は3月8日であった。



オオホシハジロ 92.12.14. 新城 久 撮影

・91年11月17日。石狩放水路にホシハジロ♂2♀1と共にオオホシハジロ♀を確認。19日には、トンネウス沼にホシハジロ♂4♀2と共にオオホシハジロ♂を観察した。

茨戸川C点で観察できるようになったのは、12月14日であった。暖冬で河面が凍結しないので、朝・午後の2回茨戸・創成川合流点付近に出てくる毎が続いている。

2) ツクシガモの越冬

暖冬の師走は、霽雪の正月となった。91年正月3日に茨戸川の初探鳥。オオホシハジロ9羽組をC点で観察していた。河面の凍結が遅く、水面が広く開いている。前面のカワアイサの群から離れ、右岸の岸辺でオカヨシガモと並んで逆立採餌している「白っぽい大型の水鳥」を見つけた。しかし折柄の風雪で十分な確認ができなかつ



ツクシガモ 92.2.9. 志田 博明 撮影

た。1月9日C点で観察。前方の右岸で採餌中のツクシガモを初認。またも、強い北西季節風による地吹雪で姿を見失う。暖冬ながら風雪の日が多い。

1月26日、ようやくの好天気で、岸で採餌中のツクシガモを観察できた。河っぱいのカワアイサ（158±）とマガモ（140±）の上空をオジロワシとオオワシが飛ぶ。水鳥が慌てて上流方向に飛ぶ。壮観な眺めだ。

1月28日～2月8日。ツクシガモがオカヨシガモと一緒に撮影しやすい場所に出て来るようになった。

2月9日。烈しい地吹雪の晴れ間を縫って志田氏撮影に成功、やっと一安心した。

2月27日。F点から観察中、オオワシに追われるように、上流に飛ぶ姿を見た。11時25分、これが終認となる。

3) 石狩河畔のコジュリン

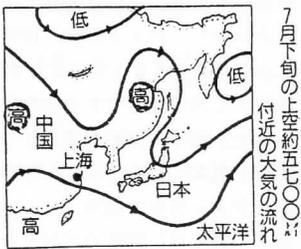
88年7月18日、早朝6時50分にJR札沼線（当時）石狩太美駅で下車。石狩河畔での「草地の鳥の子育て」を探鳥するためだ。爽やかな日和だ。

当別川の川筋をくだって石狩右岸を歩いてみる。シマアオジやアカハラにも出会う。ウズラもみつける。

石狩川公園にほど近い堤防河川敷を歩いていた。疎林でホオヅロの声を聴き、牧草ロールの上で囀るオオジュリンを見た。その前方に、さかんに鳴く小鳥……プロミナで覗く。「エ、変んだ……コジュリンなんて」。だが

何としても、それ以外の鳥ではない。50分程、逃げる鳥を追い乍ら観察を続ける。左岸へ飛んだ。

88年7月は、偏西風の蛇行（ブロッキング）現象が発生し、本道に冷夏をもたらした。こ



(88. 7. 30 朝日新聞)

こ数日、強い西風が続いている。この風が運んだ珍客なのだろうか。

翌19日は、左岸でコジュリンを探す。矢張りいた。鳴声ホホジロに似ている。3日目からは、左右両岸を探し廻ったが、姿を見つることができなかった。

4) 生振に帰ってきたクマゲラ

昨年師走21日の夜のこと。「樹洞に大型の鳥が入った」と鳥見仲間の新城氏より電話。「クマゲラか……。」「そうかも知れない……明朝8時車で迎えに行く。」

翌日、2人が共同で観察している民有林に、樹洞を確認に行く。クマゲラの巣穴だ。……同日夕方、巣穴に帰った(♀)の撮影に成功した。



クマゲラ 92. 3. 8. 新城 久 撮影

12月23日から、生振の防風林をカンジキはいて歩き廻る。筋違林にも、基線林にも大きい食痕がある。しかし姿を見せることは稀である。主要な採餌地は違うところではないかと推測した。そんな折、ラジオ放送でナチュラルリストの黒田晶子さんが「花川のクマゲラ」の話をされたと知らされた。早速電話で、ご教示を乞う。

翌日からは、日中は花川で観察・撮影を続け、夕方には帰って来る鳥を観察する。どちらも♀なので、頭部の紅斑を撮影して、比較検討した。

3月10日。新城さん・知人の高橋博明君の3ヶ月に亘る撮影結果と羽田さん視認で、同一個体であることを確認し、約10kmの範囲内が採餌場であることが判明した。いろいろ、ご指導戴いた羽田さん。生振の長谷川清子・森林所有者菅野さんのご好意に心から感謝したい。

6 むすび

4年間、フィールドとしてみてきた「生振の里」は、全くすばらしい野鳥観察地だ。

第1に……○生振の耕地防風林の存在が大きい。ヤチダモ林を中心に、ミズナラ・シナノキ・ハンノキ・ハリギリ等が織りこまれ、その下に多様な林床植物をかかえて生物の生棲地をつくりあげている。

また、真勲別地区の低層湿原植物群落も多くの野鳥類を養って貴重な存在だ。

開発の波に消されないよう、みなさんと共に見守りたいと思う。

第2に……○茨戸川・茨戸湖の河畔林だ。水辺林から湿生植物・抽水植物そして浮葉植物までが、あの狭い河畔に、さまざまな生活形をもった植物群落をつくっている。水辺林(ヤナギ類・ハンノキ・ヤチダモなど)から抽水植物にかけての一带は、魚・エビ類の生棲・産卵地であり、野鳥の営巣・育雛そして「かくれ場」でもある。勿論採餌場でもある。特に水鳥にとって大切な、越冬の場にもなる……オオホシハジロやツクシガモなど……。近代的な護岸・用排水路工事が進む中で、水辺林や、その林床が守られるような手法を配慮してほしいと願いつつ、観察を続けている。

〒002 札幌市北区篠路2条3丁目

《観察地域の区分標示について》

創成川……その流域、及び屯田防風林の一部を含む。

茨戸川……本流に、真勲別地域を含む。

(茨戸湖)……観音橋放水路より、上流部の茨戸川の俗称で、拓北・ベレケット沼を含む。

生 振……防風林を中心に、全域を含む。



ジョウビタキ 生振 新城 久 撮影

生振・茨戸川流域の野鳥 88.4～92.3

科名	種(亜)名	観察地			数	繁殖	摘要
		創成川	茨戸川	生振			
カイツブリ	カイツブリ	○	○		夏普	○	91.7トンネウス沼(繁殖)
	カンムリカイツブリ		○		旅少		90.12
	アカエリカイツブリ		○		夏少		90.91.(越冬)
	ミミカイツブリ		○		旅少		
	ハジロカイツブリ		○		冬普		各年冬も見られる
ウ	ウミウ		○		漂普		秋チカを追って遡上
サギ	ダイサギ		○		旅稀		91.5～8.15真淵別川・茨戸湖
	チュウサギ		○		旅稀		90.5～茨戸湖畔
	アオサギ		○	○	夏普		
コウノトリ	コウノトリ		○		旅稀		89.7.5～7茨戸湖
ガンカモ	マガン	○			旅稀		90.1創成下水処理場排水口
	オオハクチョウ		○		旅少		90・91年(越冬)
	コハクチョウ		○		旅少		
	ツクシガモ		○		旅稀		91.1.9～2.27(越冬)
	オシドリ		○		旅少		
	マガモ	○	○	○	留普	○	
	カルガモ	○	○	○	留少	○	
	コガモ	○	○		冬普		
	(アメリカコガモ)	○	○		旅稀		89.11.27～90.3.1(越冬)
	トモエガモ		○		旅稀		88.4.5カモ集団の中に(♂1)
	ヨシガモ	○	○		旅普		
	オカヨシガモ		○		旅普		88～91(各年越冬)
	ヒドリガモ	○	○		旅普		
	アメリカヒドリ		○		旅稀		90.10.16茨戸湖
	オナガガモ	○	○		旅普		
	シマアジ		○		旅少		毎年春に連いで来る。
	ハシビロガモ	○	○		旅普		
	ホシハジロ		○		旅普		88～91小数(越冬)
	オオホシハジロ		○		旅稀		88♂♀・89.90♀・91♂♀(越冬)
	キンクロハジロ	○	○		旅普		
スズガモ		○		旅普			
シノリガモ	○	○		旅稀		89.12創成～茨戸川	
ホホジロガモ		○		旅普		毎年伏龍川にも遡上	

科名	種(亜)名	観 察 地			数	繁殖	摘 要
		創成川	茨戸川	生 振			
	ミコアイサ	○	○		冬普		各年越冬
	ウミアイサ		○		冬少		毎年春先に遡上
	カワアイサ		○		冬普		91.1.5 (暖冬最大244±)
ワシタカ	ミサゴ			○	夏少		90.4・91.10石狩川左岸
	トビ	○	○	○	留普	○	
	オジロワシ		○	○	冬普		春と秋に飛来(二峰型)
	オオワシ		○		冬少		同 上
	オオタカ		○	○	夏少		
	ハイタカ		○	○	留普		
	ノスリ		○	○	冬普		
	ケアシノスリ		○		冬稀		90.12~91.1石狩川左岸
	ハイチロチュウヒ		○		冬稀		
	チュウヒ		○		夏少		
ハヤブサ	ハヤブサ	○	○		旅少		
	シロハヤブサ		○		冬稀		91.1.18東茨戸で中間型
	チゴハヤブサ	○	○	○	夏普	○	
	コチョウゲンボウ			○	冬稀		
	チュウゲンボウ		○	○	夏少		
キジ	ウズラ			○	夏少	○	
	コウライキジ			○	留普	○	
チドリ	コチドリ		○		夏少		
	メダイチドリ			○	旅稀		
	ダイゼン			○	旅稀	※1	※1石狩川左岸の沼工事中に観察
	タゲリ			○	旅稀		
	トウネン			○	旅少	※2	
	ハマシギ			○	旅少	※2	※2生振浚渫土廃棄場で観察
	サルハマシギ			○	旅稀	※2	(90~91年)
	エリマキシギ			○	旅稀	※1	
	ツルシギ			○	旅稀	※2	
	イソシギ		○	○	夏普	○	※その他は石狩川左岸地区
	ソリハシシギ			○	旅少	※2	
	オグロシギ			○	旅稀	※2	
	チュウシヤクシギ			○	旅少		

科名	種(亜)名	観 察 地			数	繁殖	摘 要
		創成川	茨戸川	生 振			
	オオソリハシシギ			○	旅稀	※2	
	オオジシギ		○	○	夏少	○	
カモメ	ユリカモメ		○		旅普		
	セグロカモメ	○	○		冬普		
	オオセグロカモメ	○	○		留普		
	シロカモメ	○	○	○	冬普		
	カモメ	○	○		冬普		
	ウミネコ	○	○		留普		
	アジサシ		○		旅普		
	アカアシアジサシ		○		旅少		
ハト	キジバト	○	○	○	夏普	○	
	ドバト	○		○	留普	○	
ホトトギス	カッコウ		○	○	夏普	○	
	ツツドリ	○	○		夏稀		89年秋南下中の赤色型幼鳥を見る
アマツバメ	ハリオアマツバメ		○		夏稀		兩種とも春北上の際見られる
	アマツバメ		○		夏稀		
カワセミ	カワセミ		○		旅普	○	
キツツキ	アリスイ			○	夏少	○	
	ヤマゲラ			○	留少		
	クマゲラ			○	留稀		91.12.20(♀)巣穴で見つける
	アカゲラ	○	○	○	留普	○	
	オオアカゲラ			○	留少	○	
	コゲラ	○		○	留普	○	
ヒバリ	ヒバリ	○	○	○	夏普	○	
ツバメ	ショウドウツバメ		○		夏普	○	
	イワツバメ		○		夏少		
セキレイ	キセキレイ		○		夏少		
	ハクセキレイ	○	○		留普	○	
	ビンズイ		○		夏少		真敷別、石狩左岸に見られる
	タヒバリ		○		旅稀		
ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	留普	○	
モズ	モズ	○		○	夏普	○	90.12~91.2創成川沿(越冬)
	アカモズ			○	夏少	○	

科名	種(亜)名	観察地			数	繁殖	摘要
		創成川	茨戸川	生振			
	オオモズ			○	冬稀		90.12~91.1石狩川左岸
レンジャク	キレンジャク		○	○	冬普		
	ヒレンジャク		○	○	冬少		
ヒタキ	ノゴマ		○		夏普	○	
	ルリビタキ			○	夏少		
	ジョウビタキ			○	夏稀		
	ノビタキ	○	○	○	夏普	○	
	クログミ		○	○	夏普	○	
	マミジロ			○	夏稀		
	アカハラ			○	夏普	○	
	シロハラ		○	○	旅少		
	ツグミ		○	○	冬普		
	ハチジョウツグミ			○	冬稀		
	マミチャジナイ			○	旅稀		
ウグイス	ヤブサメ			○	夏少	○	
	ウグイス	○		○	夏普	○	
	エゾセンニュウ	○	○	○	夏普	○	
	シマセンニュウ		○	○	夏少	○	
	マキノセンニュウ			○	夏少	○	
	コヨシキリ		○	○	夏普	○	
	オオヨシキリ	○	○	○	夏普	○	
	メボソムシクイ			○	夏少		
	センダイムシクイ		○	○	夏少	○	
	クイタタギ			○	夏少		
ヒタキ亜科	キビタキ			○	夏普	○	
	オオルリ			○	夏少		
	コサメビタキ			○	夏少		
	サメビタキ			○	夏稀		
エナガ	シマエナガ		○	○	留普	○	
シジュウガラ	ハンプトガラ		○	○	留普	○	
	コガラ		○	○	留普	○	
	ヤマガラ			○	留少	○	
	ヒガラ			○	留少		

毎春になると防風林に入る。

春に通過 (89.90.91)



ウトナイ湖 探鳥会

91. 11. 10

大平千夏

この日のウトナイ湖は、少しつめたい風が吹いていましたが、防寒着で身をかためたバーダー達が双眼鏡を片手に30人近く集っていました。

冬のウトナイ湖ははじめてで、トキサタマップ湿原からは何種類ものガン・カモが見られました。しかし双眼鏡しか持っていない私には、広いウトナイ湖のガン・カモを事細かく識別するのは難しく困っていました。すると会の方が、“こっちのプロミナにマガンが入っていますから見て下さい。”別の方が“こっちには、ハジロカイツブリが入りましたよ。”と皆さん親切に教えて下さいました。

探鳥会という大勢で行くため、鳥が観察しにくいというイメージがありましたが、今回の探鳥会に参加して1人で行くのもいいけれど、皆で教えあいながら見るのも大変楽しくいいものだと思います。

また、参加したいと思います。

〒001 札幌市北区33条西10丁目2～19(101)

〔記録された鳥〕

ミミカイツブリ、ハジロカイツブリ、アオサギ、トビ、オジロワシ、チュウヒ、オオタカ、チョウゲンボウ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、ヒシクイ、マガン、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、ヨシガモ、オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、カモメ、ツグミ、エナガ、ハシブトガラ、シジュウカラ、シメ、スズメ、ハシボソガラス 以上33種

〔参加者〕

野坂英三、山田良造、森田新一郎、榊川保・弘子、赤石誠二、久田伸一・道江、富田寿一、竹内強、豊口肇・美代子、矢野昭二・玲子、藤原浩一・はるみ、戸津高保・以知子、広川淳子、浜田強、荻原裕子、高柳国雄、鎌田博、川端功治、佐藤博吉、田中志司子、大平千夏、内藤宥子、林茂一、竹内(義)・(英) 以上31名

〔担当幹事〕

富田寿一、戸津高保

小樽港探鳥会

3. 12. 8

〔記録された鳥〕

アビ、ミミカイツブリ、アカエリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、ウミウ、ヒメウ、トビ、オジロワシ、ハヤブサ、コガモ、スズガモ、シノリガモ、コオリガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、ウミネコ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ワシカモメ、シロカモメ、ユリカモメ、ミツユビカモメ、ウミスズメ、ハクセキレイ、ハギマシコ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 以上31種

〔参加者〕

松本美智子、宮田貞子、川端功治、前川春子、渡辺堪治、松本六郎、菅原哲夫、高柳国雄、赤石誠二、永島トキエ、矢野昭二・玲子、広川淳子、田中礼子、浜田強、野坂英三、志田博明・政子、柳沢信雄、戸津高保・以知子、大野信明、田沢キク、佐藤恒彦、榊川保・弘子、羽田恭子、佐々木友子、栗林宏三、竹内強、田中志司子、大町欽子、佐々木武己、山田良造、三船喜克・幸子、島岡鈔、大西典子、五十嵐優幸、佐藤幸典、富田寿一、鎌田玲子、鈴木赴暢、鈴木あや子、鈴木良二、伊藤(聖)、伊藤、須藤、高田、泉勝統、新城久 以上51名 日本野鳥の会小樽支部27名 計78名

〔担当幹事〕

中野高明、渡辺俊夫、戸津高保

バードウォッチングに参加して

92. 1. 19

池谷 友樹雄
池谷 瑠織子

知人より野鳥の会の集いがある事をお聞きし、どろ亀先生もお見えになるらしいとの事で、いつか喫茶店でふと手にした「どろ亀さんの詩集」に心のやすらぎと温かさを覚えた事を思い起し、自然の空気に触れながら先生のお話も伺えたらと気楽な気持ちで参加させて頂きました。(当日先生は不参加の様でした)

擬当日の白鳥園、餌を求めて様々の野鳥がやってくるわ くるわ しかも肉眼でもこんなに見られるなんて…。ところが、スズメとカラス位しか見分けがつかない自称野鳥音痴?の私達夫婦、老若男女沢山の参加者の皆さんの「あ、シジュウカラ、アカゲラ、カケスだ」etc…のざわめきの声に便乗して「それが どれが と恥も外聞もなくお聞きし、双眼鏡を覗かせて戴きました。可愛い野鳥達からの熱いラブコールにも拘らず、俄バードウォッチャー故、なかなか鳥の名前は覚えきませんでした。カケスだけは識別できる様になったと思えます。お昼には、白鳥園のおばさん?が大きなお鍋一杯作っ

て下さったぶた汁を戴き、美味しかった事。ぶた汁をおかわりし乍ら、皆さん情報交換されている御様子。

この日をきっかけに、人と人とが触れあう様に、より多くの鳥との触れあい？から、野鳥の名前を少し広げてゆき、鳥達と友達になれたら嬉しいなあと思います。自然を守ると共に、鳥の様に自由で元気に生きる事を教えられた一日でした。

〔記録された鳥〕

アカゲラ、ヒヨドリ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、シメ、スズメ、カケス 以上9種

〔参加者〕

野坂英三、富田寿一、鎌田玲子、竹内強、松井昌、溝口恵美、山本やす子、今野弘、栗沢好恵、土岐万里、濱中恒寧、今田妹子、山田良造、富川徹・優、泉谷宜志・恵美子、沢田修・わか子、沢田美枝子、大西典子、難波茂雄、泉勝統、安部晴子、菅沼良三・郁子、小堀煌治、大町欽子、井上公雄、戸津高保・以知子、種市国和・和郎、池谷友樹雄・瑠織子、国本昌秀、佐々木武己、新妻博・登貴子、古川豊子、矢野玲子、今泉秀吉、田中礼子、榊川保・仏子、安部福子、佐藤ケイ、吉田忠勝、久田伸一、佐藤博吉、柳沢信雄、武沢和義・佐知子、佐藤勇 以上54名

〔担当幹事〕

小堀煌治、竹内強、矢野玲子

野幌森林公園探鳥会に参加して

3. 10. 20 多田 尋子

以前から興味のあったバードウォッチングでしたが、念願かなって今回の探鳥会に二人の子供と共に初参加となりました。少し肌寒く、時折雨もふり出す空模様でしたが、美しい紅葉の中、小鳥達のさえずりに耳を澄ませ大きなハチの巣に驚ろき、枯葉を敷きつめた小道を進むにつれ、親切なベテランの皆様のアドバイスのおかげで双眼鏡の使い方にも少し慣れ、指さされた先にキクイタダキの姿をしっかりと見られた時は、もう大感激。

その他にも、今まで知らなかったルリビタキ・キビタキ・キバシリ・アトリ等も見ることが出来ました。天空をゆったりと飛ぶオオタカとノスリの見分け方を教えて頂いたり、エモノをつかんで飛んでいくトビに驚いたり、中でもアオサギの雄大で華麗な姿は忘れられません。

この次は、図鑑を持って参加しようとして子供達と約束し、楽しかった探鳥会は終わりました。

また是非、皆様と御一緒させて頂きたいと思います。

心の中では今、感謝の波が次第に大きく揺れています。私達の前に現われてくれた鳥達に、それをやさしく育てている山や森に……そして、何よりも初めての私達に親

切に御指導して頂きました皆様本当にありがとうございました。

〒005 南区石山3条6丁目7-15

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、オオタカ、ノスリ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヒヨドリ、ルリビタキ、ウグイス、キクイタダキ、キビタキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アオジ、アトリ、カワラヒワ、イカル、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、カモ不明種(上空) 27種。

〔参加者〕渋谷一郎・幸子、永島良郎・トキ江、久田伸一・通江、野口正男・まよ、多田尋子・亜妃子・早織、戸津高保・以知子、鎌田博・キサ、白鳥満・睦子、矢野玲子、今野弘、阿部キミ子、鎌田玲子、大西典子、田辺至、三船幸子、山田良造、菅原哲夫、浜田強、石渡豊子、広川淳子、野坂英三、佐々木友子、新田キノ、栗林宏三、犬飼弘、杉田範男 以上35名

〔担当幹事〕矢野玲子、山田良造

自主探鳥会記録

1991年度分

宮島沼探鳥会 4月21日(日)雨

〔記録された鳥〕マガン、シジュウカラガン、シジュウカラガンとマガンの雑種、オオハクチョウ、キンクロハジロ、カルガモ、オカヨシガモ、オナガカモ、ハシビロガモ、マガモ、シマアジ、ヒバリ、ノビタキ、ムクドリ、オオジシギ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ツグミ、カシラダカ、モズ、キジバト、アオジ、トビ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、スズメ 26種

〔参加者〕34名

〔担当幹事〕泉勝統、山田良造

室蘭(女測量山・マスイチ)探鳥会 9月22日(日)

〔記録された鳥〕ウミウ、トビ、ハイタカ、ノスリ、チゴハヤブサ、ハヤブサ、ハチクマ、オオセグロカモメ、ヒバリ、イワツバメ、ハクセキレイ、イソヒヨドリ、サメビタキ、エゾビタキ、コサメビタキ、ハシブトガラ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 21種

〔参加者〕三船喜克・幸子、石谷義一、野坂英三、永島良郎・トキ江・麻子、羽田恭子、武沢和義・佐知子、豊口肇・美代子、成沢里美 13名

〔担当幹事〕永島良郎、野坂英三

宮島沼・鏡沼探鳥会 10月13日

〔記録された鳥〕

宮島沼

カイツブリ、ミミカイツブリ、ハジロカイツブリ、アオサギ、トビ、コハクチョウ、マガン、ヒドリガモ、コガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、

スズカモ、ツルシギ、ユリカモメ、キジバト、フクロウ、アカゲラ、ハクセキレイ、ノゴマ、ツグミ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、ニュウナイスズメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス 29種

鏡沼

カイツブリ、トビ、ヒドリガモ、コガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、スズカモ、キジバト、アカゲラ、ツグミ、カシラダカ、カワラヒワ、シメ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、カシラダ

カ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カケス 23種

〔参加者〕武沢和義・佐知子、藤原浩一・はるみ、榊川保・弘子、田中金作・礼子、犬飼弘、戸津高保・以知子、柳沢信雄、野坂英三、栗林宏三、宮崎宣典、道場優、佐藤幸典、田辺至、香川稔、山田良造、浜中恒寧、大町欽子、和久雅男、富川徹、鎌田玲子、佐藤博吉、羽田恭子、赤石誠二、今田まい子、伊東裕二、山下肇、若林信男、今野弘、鈴木克司、草野貞弘、三船喜克・幸子 37名
〔探鳥幹事〕富川徹、山田良造



〔野幌森林公園〕

平成4年5月3日(日)

オオルリ、キビタキ、シジュウカラ等のさえずりやアカゲラのドラミング等、春の森はにぎやかです。木の葉が、まだそろわない今は、探鳥会に最適な時です。

集合=9:00 大沢口駐車場入口

交通=夕鉄バス(文京台線)新さっぽろ駅発8:20、大沢口公園入口下車、徒歩5分

〔千歳川周辺一泊早朝探鳥会〕平成4年5月9~10日

野鳥が一番活発に動く早朝からの探鳥の為、森林や川辺の鳥が息つく暇なく50種以上も次々と現れます。アカショウビン等も期待できます。

日時=5月9日(土)19:00より交流会、10日(日)4:00より探鳥会開始、午前中解散予定

場所=「支笏湖コースホテル」

千歳市支笏湖温泉番外地 TEL0123-25-2311

会費=3500円程度……宿泊料(夕食付)

朝食=10日(日)の朝食は各自持参して下さい。

集合=①19:00 支笏湖コースホテル

②列車バス等利用の方は、18:00、JR千歳駅待合室(マイクロバスが迎えに来ます)

申込=4月と5月の野幌探鳥会の時。又、電話の場合は5月8日迄に、011-831-8636、戸津宅まで。

〔鶴川〕平成4年5月17日(日)

美しい夏羽のムナグロ、キョウジョシギ、オオソリハシギ等が多数見られます。昨年5月の探鳥会ではアジサシの群や、ヨタカが現れました。水溜り等もあるので長ぐつ使用が無難です。

集合=9:30 JR鶴川駅前

交通=道南バス(浦河行)札幌駅発8:00、鶴川駅通下車

〔植苗ウトナイ〕平成4年6月7日(日)

植苗駅から続く林にはオオルリ、ホオジロ等が見られ、美々川下流の草原ではコヨシキリ、ノゴマ、シマアオジのさえずりやオオジョシギの急降下も楽しみです。

集合=9:10 JR植苗駅前

〔東米里〕平成4年6月14日(日)

空地だった所が段々と資材置場等になり年々草原が少なくなっていますが、アカモズ、ノゴマ、カッコウ、オオジョシギ等が多く観察されます。

集合=8:00 東米里小学校前

交通=地下鉄菊水駅より市営バス(白7米里線)、東米里小学校前下車

〔平和の滝・夜の探鳥会〕平成4年6月20日(土)

月や金星が輝き、コノハズク、ジュウイチ、ツツドリ等が盛んに鳴き、ヤマシギが山の稜線を飛びます。

集合=18:30 平和の滝駐車場

交通=地下鉄琴似駅より市営バス(西42西野平和線)、平和の滝入口下車、徒歩20分

〔福移〕平成4年7月5日(日)

ショウドウツバメが飛びかい、オオジュリン、ノビタキやアカモズ等が見られ、ノゴマ、ベニマシコも期待できます。この探鳥会では毎年ウズラが観察されています。

集合=8:40 市営バス福移入口停留所横

交通=地下鉄環状通東駅より市営バス(東69北札苗線)、福移入口下車

〔野幌森林公園を歩きましょう〕

平成4年5月24日(日)

平成4年6月28日(日)

平成4年7月12日(日)

集合=9:00 大沢口駐車場入口

○いずれの探鳥会も余程の悪天候でない限り行います。

○交通機関は変更等がありますので、利用される方は、各自で再調査をお願い致します。

○昼食、雨具、観察用具、筆記用具をご持参下さい。

○探鳥会の問い合わせは、011-831-8636、戸津宅まで。

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 1,500円 (会計年度4月より) 郵便振替 小樽 1-18287
☎060 札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル5・6階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465